

都城工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	音楽
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	機械工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	音楽 I Tutti (教育出版)				
担当教員	今村 祐子				
到達目標					
1) 歌詞や曲調を味わいながら表現できる。 2) リコーダーの奏法を習熟し、人前で演奏できる。 3) 楽譜についての基本的な理論や音楽史を理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安 A	標準的な到達レベルの目安 B	未到達レベルの目安 C	(学生記入欄) 到達したレベルに○をすること。	
評価項目1	歌詞や曲調を暗譜で自己表現できる。	歌詞や曲調をほぼ理解して歌唱できる。	歌詞や曲調を覚えて、少しは表現できる。	A ・ B ・ C	
評価項目2	人前でリコーダーを上手に演奏することができる。	人前でリコーダーを曲の最後まで演奏することができる。	人前でリコーダーを演奏することが少しはできる。	A ・ B ・ C	
評価項目3	音楽の歴史や基本的な理論をより幅広い観点で理解できる。	音楽の歴史や基本的な理論を理解することができる。	音楽の歴史や基本的な理論について一部は理解することができる。	A ・ B ・ C	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 3-3					
教育方法等					
概要	音楽の幅広い活動を通して、さらに関心を深め、芸術的な事物を生涯愛好する心情を育てるとともに、その能力を伸ばし、理解を深め、豊かな感性を養う。				
授業の進め方・方法	5年間の高専生活で授業時数の少ない、貴重な時間として受講してほしい。授業ではリコーダーを使用するので、楽器の忘れ物がないよう注意する。任意の歌の練習を行うので、声が出せるよう体調に気を付けること。諸課題については、自学自習し、資料などを用いて発表できるよう準備すること。				
注意点					
ポートフォリオ					
(学生記入欄) 【理解の度合】理解の度合について記入してください。 (記入例) ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。 ・前期中間試験まで： ・前期末試験まで：					
【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。 (記入例) ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。 ・前期中間試験 点数： 総評： ・前期末試験 点数： 総評：					
【総合到達度】「到達目標」どおりに達成することができたかどうか、記入してください。 ・総合評価の点数： 総評：					
-----					
(教員記入欄) 【授業計画の説明】実施状況を記入してください。  【授業の実施状況】実施状況を記入してください。 ・前期中間試験まで： ・前期末試験まで：					
【評価の実施状況】総合評価を出した後に記入してください。					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 1. 歌唱 芸術歌曲	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 譜面上の事柄をある程度理解し、読譜力をつける。	

2ndQ	2週	劇音楽 世界の歌	歌詞（言葉）や季節感を味わいながら、曲を表現できる。 原語（英語・独語・イタリア語）による歌唱を習得する。
	3週	日本の歌	
	4週	2. 器楽（アルト・リコーダー） 呼吸法	アルト・リコーダーの奏法を習熟し、発表することにより、集中力・表現力及びその達成感を得る。
	5週	基本的奏法	アルト・リコーダーの奏法を習熟し、発表することにより、集中力・表現力及びその達成感を得る。
	6週	独奏曲	アルト・リコーダーの奏法を習熟し、発表することにより、集中力・表現力及びその達成感を得る。
	7週	独奏曲	アルト・リコーダーの奏法を習熟し、発表することにより、集中力・表現力及びその達成感を得る。
	8週	3. 楽典 楽譜についての基本的な理論	楽典の学習により、音楽の仕組み、諸要素を理解できたか確認する。
	9週	4. 歌唱 斉唱	
	10週	二部合唱	
	11週	合唱の楽しみ	
	12週	合唱の楽しみ	
	13週	手話による歌	
	14週	5. 西洋音楽史 古代、中世、ルネサンス、バロック、 古典派、ロマン派、近代、現代	音楽史の学習や、楽曲の鑑賞を通して豊かな感性を磨き、より幅広い観点で音楽を理解できるようにする。 ・西洋音楽史に沿った各時代の特徴
	15週	6. 鑑賞 日本の伝統音楽 民族音楽	郷土の伝統音楽、諸外国の音楽
	16週		

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
<b>評価割合</b>					
	小テスト	口頭発表	成果品実技	その他	合計
総合評価割合	10	30	50	10	100
知識の基本的な理解	10	0	0	0	10
思考・推論・創造への 適応力	0	0	0	0	0
汎用的技能	0	0	20	0	20
態度・志向性（人間力）	0	0	30	10	40
総合的な学習経験と創造的 思考力	0	30	0	0	30